

研 究 所 彙 報 X X I

—1974.12～1975.11—

学会および研究会報告	〔日本地理学会春季大会〕	1975年4月29日	専修大学
	「白山北西麓の小地名 —特に焼畑地名について—」		千葉徳爾
	〔日本地理学会春季大会〕	1975年5月1日	専修大学
	「菅平の熱収支」		山下脩二
	〔関西社会学会大会〕	1975年5月24日	関西学院大学
	「地域社会の変貌」		牧野由朗
	〔関西社会学会大会〕	1975年5月25日	関西学院大学
	「現代漁村社会学の課題」		後藤和夫
	〔日本地理学会秋季大会〕	1975年10月1日	神戸大学
「菅平の小気候」		山下脩二	
〔愛知大学四研究所合同講演会〕	1975年11月10日	愛知大学	
「豊橋近郊開拓農村の実態とその変容」		牧野由朗	
〔第21回宗学大会〕	1975年11月18日	駒沢大学	
「小布施方」に関する 広瀬良弘氏の反論を謝し、疑義の 1, 2 に及ぶ一反論に対する反論		鈴木泰山	

現 地 調 査

〔利根川水源地域整備に関連する世論調査〕

千葉所員は1975年1月5日～7日, 2月13日～16日, 3月24日～28日の期間, 学生延8名とともに群馬, 栃木両県下において調査を行ない, 約700枚のアンケートを整理し造林事業不振の原因の一端を知りえた。

〔狩猟伝承調査〕

千葉所員は1975年1月10日～14日(和歌山十津川村), 4月20日～27日(山形県小国町)学生1名, 8月1日～29日(秋田・山形・青森・岩手・宮城各県, 学生延2名)において調査を行ない在来の狩猟伝承に新資料を多数追加し得た。

〔可睡斎僧録文書の調査と修復〕

歌川所員を主任として, 鈴木泰山・坂井両所員は本学村長利根朗教授, 古瀬吉秀講師, 河合正樹豊橋市史幹事, 愛知学院鈴木鋭彦教授, 同大鈴木哲雄助教授らとともに1975年3月1日～3日(本年で6回目), 静岡県袋井市可睡斎において僧録文書の調査と修復を行なった。

この調査のため歌川・坂井所員らは度々文部省史料館主催の古文書

修理保存の講習会に参加している。又参加史学科学生は少なくとも10人多い時には30人余であり、その傍ら禅寺の規式による暁天坐禅に参加する者も毎年跡を絶たず、その点異色ある研究行で他大学には類例のないものと思われる。修復面だけならば此处1～2年で終了の予定でいる。

〔漁村社会の変容についての調査〕

牧野所員は1975年4月25日～29日にかけて、交野所員および社会学科学生約10名とともに三重県鳥羽市国崎町において昭和35年以降の基礎的資料の蒐集を行なった。

〔松平忠利日記および松平家文書調査〕

近藤所員は1975年6月30日～7月4日、豊橋市史執筆委員1名、市吏員1名とともに長崎県島原市松平文庫および本光寺において調査を行なった。

〔水温の発生、保存に関する研究〕

山下所員は1975年7月9日～12日にかけて、宮沢所員、地理学専攻学生21名とともに北設楽郡東栄町大千瀬川において調査を行ない、研究成果は現在取りまとめ中である。

〔現段階における志摩漁村の構造と変動〕

後藤所員は1975年7月11日～14日、8月19日～21日、8月28日～9月3日の期間、名大助教授中田実氏、他学生とともに三重県志摩郡大王町船越において、文献資料の収集と、1962年、63年に調査した企業体および世帯のその後の変化についての追跡調査を行なった。

(約220世帯)

〔地方都市における株内と親類調査〕

交野所員は1975年8月～10月にかけて、京都府綾部市田町において調査を行なった。

〔豊橋近郊開拓農村の実態と変容についての調査〕

牧野所員は1975年9月、基礎的資料の蒐集のため豊橋市において聴取り調査を行なった。

〔小気候の体系化〕

山下所員は1975年9月1日～5日にかけて、立教大学西沢利栄教授、山梨大学吉村稔助教授らとともに、長野県菅平において調査を行ない、その成果は日本地理学会に発表の予定である。

〔(A)「呼波里三十六歌仙」(B)「尾藩三十六詩偈」発見の報による調査〕

夏目所員は1975年9月6日、津島市本住寺において同朋大学国文研究室副手および学生3名とともに調査を行なった。(A)については昭和17年頃調査したこともあり、又明治39年5月好古類纂に収められているが、(B)は新たに発見されたものである。両書共安政2年本住寺17世諦靈の撰であり現在影印本作成中である。尾張に係る歌人の小伝および代表作一首を収めている(無住から諦靈の父諦盛まで)。

〔遠州森町を中心とする如仲天閣の足跡〕

鈴木泰山所員は1975年11月1日～3日、長男鈴木泰史氏とともに森町橋谷大洞院、一宮小国神社、天宮天宮神社、森蓮華寺において、11月18日駒沢大学での論争に備えての調査を行ない、特に大洞院・天宮神社において10数点の史料を見つけ「小布施方」が天宮神社の宮座員であることを傍証し得た。

〔安閑紀元年五月の条に見える駿河国稚贄屯倉の所在についての調査〕

万葉集巻二十、防人歌に見える駿河国、春日部麻呂の出自と関連して、夏目所員は1975年11月12日静岡県富士市元吉原「天香久山」と称されてきた一帯の地域において所在の調査を行ない、本吉原の生贄川・沼川合流地域を中心として稚贄屯倉の置かれた地と推定、春日部麻呂を安閑皇后春日山田皇女の名を冠する部民の裔と推定した。

〔二見の道の地理的位置に関する調査〕

夏目所員は1975年11月21日、宝飯郡音羽町赤坂において浜松市伊場遺跡出土の八世紀の木簡「宮地駅家」の墨書があり、奈良時代宮地駅家の存在が確認され、結論的には赤坂字紅里辺と想定された。

〔牧野成春、成央関係史料調査〕

近藤所員は1975年11月24日、25日豊橋市史執筆委員1名、市吏員1名とともに茨城県笠間市笠間稻荷神社において史料調査を行なった。

〔大井川の段丘調査〕

宮沢所員は1975年12月12日～15日、水山高幸（京教大）山下所員、学生20名とともに牧の原大井川において段丘の分布と対比調査を行った。

〔西植田区有文書の調査〕

歌川所員は1975年7月、法経学部村長教授及び市吏員2名、学生15名と共に、市内西植田村区有文書の調査・整理を行なった。

〔渡辺家文書の整理〕

歌川所員は1975年9月5日～8日の間、村長教授・古瀬講師・学生20名と共に、本所々蔵の渡辺家文書の整理を行なった。

著書・論文

〔交野所員〕

「農民層の動向と村落」『関西学院大学社会学部紀要』第29号、1974年12月10日

〔久曾所員〕

「冷泉孝恭臨写」『類聚鑑』（下）『かな研究』58号、1975年1月20日

「元永本古今集の内容」『かな研究』59号、1975年4月20日

「烏丸類切大和物語」『かな研究』60号、1975年7月20日

「枳色紙の内容」『かな研究』61号、1975年10月20日

〔後藤所員〕

「漁村社会研究の諸問題」『ソシオロジー』中田実共著、20の2、1975年10月

〔近藤所員〕

『賀茂真淵と菅江真澄—三河植田家をめぐって—』橋良文庫，1975年3月10日

「吉田城と城下町，城下町吉田の発展，吉田の教育と文化」豊橋市史第2巻，1975年11月1日

〔鈴木泰山所員〕

『瑩山禪師研究』共著，瑩山禪師奉賛刊行会 1974年12月20日，

「可睡齋外史(19~23)』『道元』(可睡齋)，1975年2月1日，

3月1日，5月1日，10月1日，11月1日

「等膳和尚と家康」『禪研究所紀要』特輯号，1975年3月25日

〔鈴木中正所員〕

「中国王朝革命史の補説」『アジア研究』22の1，1975年4月

〔千葉所員〕

『狩獵伝承』法政大学出版局，1975年2月25日

「蔵王山東麓における野生大形哺乳類分布およびその変動について」

『東北地理』27巻2号，1975年4月1日

「地名と地域史」『地方史研究』137号，1975年10月1日

「明治22年十津川災害における崩壊の特性Ⅰ・Ⅱ」『水利科学104・106号，1975年6月1日，10月1日

〔堀井所員〕

『御所ことば』雄山閣出版，1974年12月，

『京都語辞典』東京堂出版，1975年3月

「固定語順と自由語順」『アカテミア』（文学，語学編）第22集，1975年3月

〔牧野所員〕

「漁村社会の変貌」『ソシオロジ』第20巻2号，1975年10月30日

〔宮沢所員〕

「矢作川流域の水収支」『愛知教育大学研究報告』（自然科学）原昭宏共著，第24号，1975年3月1日

〔山下所員〕

「都市の放射収支に関する一考察」『地理学評論』1975年10月

「菅平の熱収支」『Climatological Reports』1975年11月

「カナダの環境アセスメントについて」『環境アセスメント研究(1)』1975年9月

昭和50年度研究所組織

〔所 長〕	川越 淳二		
〔所 員〕	歌川 学	大須賀初夫	交野 正芳
	川越 淳二	久曾神 昇	見城 幸雄
	後藤 和夫	近藤 恒次	坂井 達朗
	島本彦次郎	鈴木 泰山	鈴木 中正
	田崎 哲郎	千葉 徳爾	中出 惇
	夏目 隆文	堀井令以知	牧野 由朗
	松下 智	宮沢 哲男	山下 脩二
〔運営委員〕	(庶務)	見城 幸雄	
	(企画)	島本彦次郎	
	(資料)	坂井 達朗	
	(編集)	歌川 学	
〔事務委託〕		山本 朝子	